

県内企業トップ訓示

県内企業は4日、新年の仕事始めを迎えた。「飛躍の1年に」「環境変化に対処を」「人材への投資を積極的」に。各企業のトップは年頭訓示で意気込みを語った。主な企業経営者の訓示をまとめた。

信頼関係構築を強化



十六銀行
村瀬幸雄頭取

使命。お客さまとのエンゲージメント(双方の信頼関係構築)強化を最優先の行動軸とする「エンゲージメント1st(ファースト)」を確立したい。そのためには従来の考え方、仕事のやり方を大きく変えていかなければならない。知恵をの拡充に加え、地方創出し合い、勇気と覚悟を持って乗り越えていくことが地域金融機関の

地域密着、地道な営業



岐阜信用金庫
高橋征利理事長

選ばれた金融機関となつてシェアアップを図ることが重要である。そのために、役職員が一体となり、企業の事業性評価を重視した融資や、コンサルティング機能の発揮による、お客さまのライフステージに応じた取り組みを強化するなど、地域に根差した地道な営業活動を実践し、飛躍していく年としたい。

合併で利便性高める



大垣信用金庫
栗田順公理事長

いよいよ1月12日に「大垣西濃信用金庫」が誕生する。この合併により規模のメリットを生かした経営基盤の強化を図るとともに、西濃地方を中心とした店舗ネットワークの拡大による、お客さまの利便性向上を通じて、地域社会への貢献を一層果たしていきたい。

変革求められる1年



トーカイ
小野木孝二社長

義、人事制度などを原点に返って検証し、グループ全体の業務の抜本的な見直しと人材育成に取り組む。人材への投資を積極的に行い「自身の成長を実感できる会社」を目指す。連結売上高1千億円「成長の10年」から「変革の10年」を旗印に、外部環境の変化に適切に対応し、トーカイグループとして61年目の新しい一歩を踏み出そう。

新サービス取り組む



大垣共立銀行
土屋嶠頭取

するか。異業種が異業態に入り、われわれ金融業にも他の業種が参入している。これまでOKBブランドを727つとってきたが、地域とともに地域創生の総仕上げとして新しいサービスや業務に取り組む。10年、20年後に地域に大きく存在する起点となる年になるように、大いに頑張りたい。

地域の成長にエール



東濃信用金庫
市原好二理事長

域金融機関に、地方創生をけん引する役割が期待されている状況の下、今年は職員一人一人が、①お客さまの成長、②地域の成長に「エール」を送れるような金融経済知識や企業情報・地域情報の蓄積と提案力の強化に努めるとともに、そんな自分自身の成長に対し「エール」を送ろう。

ぶれない「軸」を築く



バロー
ホールディングス
田代正美会長兼社長

する気候変動現象や来年4月に控える消費税の引き上げなど、経営を取り巻く環境はますます厳しさを増す。前中期経営計画で積み残した人材育成や投資方針などの課題を整理しつつ、グループが保有する経営資源を有機的に組み合わせ、変化に対してぶれない「軸」を再構築する年とした。

親しみやすさに磨き



岐阜乗合自動車
岸野吉晃社長

新しい年が明けました。今年も昨年以上に飛躍できる年にしていかなければならない。安全運行を何よりも最優先させ、その上で、やさしさや親しみやすさに磨きをかけ、お客さまにバスをより身近に感じていただくような取り組みを行っていきたく考えている。さらに、これまで築き上げてきた長い歴史に自信と誇りを持って、岐阜乗合自動車のより一層の発展と、飛躍のために頑張っていきたいと考えている。